

名前 _____ 年 組 _____

コラム「北斗星」

「青める」

「青める」という言い方が男鹿市にある。採れたてで、まだ褐色の海藻を塩もみして湯がき、鮮やかな緑色へ変える作業をいう。連休中に男鹿マリーナで行われたワカメの刈り取り体験会で教わった。

くぐらせる瞬間は、何度繰り返しても胸が高鳴った。緑色に姿を変えたワカメは磯の香を放ちつつトロトロ。いくらでも喉を通っていった。

辞書には「青む」という語があり、これは「青くなる」の意。しかし、男鹿の「青める」は単に色を変えろということではないのだらうと、持ち帰った大量のワカメと台所で格闘しながら思った。

聞くところによると、青める際のお湯は海藻の種類ごとに適温があるのだという。地元でふんだんに採れる海藻を最もおいしく、かつ滋養たっぷりに食べるための手法として、男鹿の先人が工夫を重ねてきた飽くなき探究心こそが、青めるという言葉に込められているのではないか。

茎から離れたワカメの葉を塩もみすると細かな泡がぶくぶくと出て、柔らかさが増していく。塩抜きをしたワカメを湯に

を「未来に残したい技の一つ」であり、「新しい食材として海藻を見る人々のヒントになると確信している」と記す。

冒頭の刈り取り体験会は秋田市でも開催され、両会場で親子連れら計100人ほどが参加した。ワカメの魅力を存分に味わった一人として、「青める」の未来を確信した。

男鹿では2023年に国際海藻サミットが開かれた。開催後にまとめられた報告書は「青める」

※【磯】海などの波打ち際で、岩の多いところ。
 ※【滋養】体の栄養になること。
 ※【飽くなき】「どこまでも満足することのない」という意味。
 ※【探究心】物事について、深い知識を得ようとする気持ちのこと。
 ※【冒頭】文章や物事などの初めの部分。

秋田魁新報2025年2月26日付より。記事は手直ししています。

秋田魁新報2025年2月26日付より。記事は手直ししています。

1 「青む」とは違う「男鹿の『青める』」を、筆者はどのようにとらえていますか。記事中の一文を選び、始めの8字を書きましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

2 筆者がワカメの魅力^{みりょく}を存分に味わった時に喜びを感じたことを2つ、記事の中から25字以内で選んで書きましょう。(まだ学習していない漢字は、ひらがなでもよい) また、選ぶ際に注目した表現を に書きましょう。

①

注目した表現

②

注目した表現

3 記事の最後を「ワカメの未来」や「男鹿の未来」ではなく、「青めるの未来」にしたのには、筆者のどのような思いが込められているのでしょうか。次の中から2つ選び()に○を書きましょう。

- () 褐色のワカメが、鮮やかな緑色に変わることを実際に体験することで、瞬時に変わるワカメの色の魅力は未来に伝わるはずだ。
- () 「青める」という言葉を語り継ぐことで、地元の海藻を食べる人が増えるので、男鹿の海藻の消費量はこの後も減らないだらう。
- () 海藻を食材としてあまり注目してこなかった世界の人々に、「青める」を理解してもらうことで、食材としての海藻の価値にも気付いてもらえそうだ。
- () 最もおいしく、滋養たっぷりに食べられるようにするために先人が工夫し探究してきた「青める」技をもとに、さらに男鹿の海藻のよさが広まっていくに違いない。